

## 書 評

辻 康 吾

評者が勤務する東海大学でも今年は中国語を選択する学生が大幅に増え、クラスの再編、教員の確保に嬉しい悲鳴を上げた。各地の大学でも中国語選択者が増えているという。一時中国語学習者数は日中関係の動向に従って増減すると言われたこともあるが、両国関係の安定の中で中国語学習も拡大安定の時期に入ってきたようである。

その中で今年是中国語関係の辞典 4 冊がほぼ同時に出版された。その総てをまだ使い込んではいないが、それぞれに新しい工夫や改善のための大きな努力が窺われ、かつて頼るは井上『中国語新辞典』一冊という時代の評者にとってはなにか夢のように思われる時代となった。

とりわけ 68 年の初版に際してちょっとした感激を感じた『中日大辞典』が大幅増訂の後出版されたことは量、質ともに向上、拡大を続ける中国語学習にとって大きな励ましである。

収録親文字 14000 字、収録語 14 万語、中国を含めて当面最大の現代中国語辞典となった。語学というより、主として文学、社会科学の角度から辞典を利用する評者にとって満足しているのは大幅に現代用語が収録されたことである。周知のように社会主義中国もまた文字の国であり、ごく平凡な時事用語を確認するのにかなりの時間を割いてきたものにとって“包干到户”、“四个现代化”、“关系学”などの採録は大きな助けとなる。

技術的には旧版に無かった各ページ上端に親字が配列され、検索を楽にしている。無いものねだりをするなら、どうせ親字を上端に出したならそこにも声調をつけてあれば発音字典としてもより便利であったような気がする。そういえば旧版で 68 ページだった「日本語索引」も 92 ページに増えている。しかしこれだけ周到的な配慮をしながらとも思えるのだが、本文部分のみでも 2522 ページのこの大著を B6 版に仕立てた結果、旧版でも感じた分厚さが一層増したことである。もちろん辞典は小型であることも望ましいが、評者を含め老眼鏡世代のものにとって、これだけのボリュームの辞典はせめて机上版は欲しいところだった。もう一言いえば、最近の美しい挿絵、写真に溢れる英語辞典類をみるにつけても『最新中国情報辞典』(小学館)を先例に、図版や表があればもはやテレビ世代が絶対量を占める最近の中国語学習者にも喜ばれたのではないだろうか。

---

[注]「中国語」1986年7月号所載。辻康吾氏は東海大学教授。

## 書評

## 『中日大辞典』評価高く増刷

ことし、十八年ぶりに「中日大辞典増訂版」を発刊したが、愛大が続けている中国との交流が編集の大きな力になった。

中日大辞典は四十三年に出版。「愛大の中日大辞典」と全国的に高い評価を受け、計七万部印刷された。以後、文化、経済などすべてに中国の発展は急で、「時代にふさわしい辞典を」の要望が強くなり、五十年から増訂版作りを始めた。

生活の中の言いまわしの変化、科学、技術分野の新用語の多さは予想以上で、編集作業は大変だった。愛大は中国の北京語言学院、南開大などと学術教育交流協定を結ぶなど、中国との交流は盛ん。そこで、中国の大学からの交換教員や留学生らに協力をあおいだ。

激光自導導弾（レーザーミサイル）や方便面（インスタントラーメン）など、彼らのアドバイスで採用された新しい言葉は多い。縄跳びは中日大辞典で跳繩だったが、留学生の指摘で、増訂版では跳皮筋に。中国でも、昔は縄で遊んでいたが、いまは、ゴムを使うからという。

一万五千部印刷。「中国の人の協力があつてこそ」と、愛大は中国国家教育委員会に増訂版を千冊と中国の大学に約百冊贈った。

〔注〕中日新聞 一九八六年七月十三日所載。

## 近代化に対応し生きた言葉を豊富に

外国語の辞書の水準は、その国の語学研究の水準を示すといわれる。この点からすると、日本で出版されている英国の辞書はもとより、フランス語、ドイツ語、ロシア語の辞書の水準には定評がある。中国語の辞書はどうかという点と、それらの辞書に比べて、まだ開きがあるのではなからうか。

そうした中で、一九六八年に出版された『中日大辞典』は、豊富な言葉と的確な解釈で高い評価を得て、長い間、中国語の辞書の「王座」を占めてきたことで知られる。こゝろ出版された、その増補版は、収録親字数一万三千字、熟語数十四万語。二千五百二十ページで、約五百ページも増えている。

目立つのは、近代化を進める中国で使われている言葉が多く収められていることだ。例えば、「軟件」⇨ソフトウェア、「万元戸」⇨年収入が一万元を超える家庭。おなじみの「鉄飯碗」⇨確かな（食いはぐれのない、解雇されることのない）職業、「親方日の丸」など。

それだけではない。「文革」中に、しきりに使われた「样板戲」⇨模範劇なども加えられている。かなり、目くばりがきいているのである。

さらに、指摘しておきたいのは、この増訂版は、以前のものにもまして、日中友好協力と学術交流の結晶であることだ。この点で、日中双方の関係者の労を多としたい。

いま、この辞書を手にすると、新たな感慨がよみがえってくる。中国語は長い間、日本では「実用語学」の域を脱することができなかったが、この増訂版の出版は、日本の中国語学の研究に、新たな展開を促すことになるとみられるからだ。

(英)

〔注〕「日本と中国」第1296号（一九八六年七月五日）所載。

## 新語や方言など14万語収容

## 『中日大辞典 増補改訂版』

愛知大学中日大辞典編纂処編

愛知大学が昭和五十年から進めてきた改訂作業が完成したものの。旧版の刊行は四十三年で、二千<sup>六</sup>、親字一万一千、語彙(い)十万語強。五十七年までに八刷、七万冊を印刷した。

今回、完成した改訂版は旧版に比べ七百<sup>六</sup>増の二千七百<sup>六</sup>、親字は同じく二千字増の一万三千字、語彙は三万語増えて十四万語と政経時事、科学技術用語から方言、ことわざ、古語、俗語におよぶ豊富な内容となっている。また北京語言学院、北京農業機械学院のスタッフの協力を得て新語彙を加えることに重点を置いてるのが特徴だ。(大修館書店刊ⅡⅧ〇三(294) 二二二一ⅡB6、二、七〇〇<sup>六</sup>、六、八〇〇円)

〔注〕 日刊工業新聞 一九八六年七月七日所載。

中国  
関係書  
81年ベストセラー

東京都内の中国関係書を取り扱う書店六社に、八一年のベストセラー七点を上げてもらった。各書店の特色もうかがわれて、なかなか興味深い結果が出ている。

■ 亜東書店 1 『全国铁路旅客列车时刻表』中国铁道出版社、2 『L1中国語初級』大修館、3 『中華人民共和国地図・日本語版』亜東書店、4 『現代日中辞典』光生館、5 『中国共産党の歴史についての決議』外文出版社、6 『中日大辞典』燎原書店、7 『袖珍日漢会話手冊』知識出版社

■ 内山書店 1 『中日大辞典』燎原書店、2 『中国語基本語ノート』大修館、3 『中国語手紙の書き方』金星堂、4 『中国社会主义經濟問題研究』外文出版社、5 『総合力アップ中国語問題集・・8年版』現代出版、6 『文芸読本・魯迅』河出書房新社、7 『現代のエスプリNo.162・中国人と日本人』至文堂

■ 東方書店 1 『中日大辞典』燎原書店、2 『一人歩きの中国旅行会話』東方、3 『中国社会主义經濟問題研究』中華書店、4 『中国語基本語ノート』大修館、5 『中国語手紙の書き方』金星堂、6 『中国歴史の旅』東方、7 『現代日中辞典』光生館

■ 燎原書店 1 『中日大辞典』燎原、2 『新日漢辞典』内山書店、3 『中医学基礎』燎原、4 『東医雑録』燎原、5 『中医学入門』医歯薬出版、6 『ポケット日漢辞典』燎原、7 『中国貿易用語辞典』燎原

〔注〕「日本と中国」一一四八号 一九八一年二月一五日所載。